

7月号 ボランティアだより

2022

No.200



発行 社会福祉法人 甲州市社会福祉協議会
甲州市塩山上於曾977-5
TEL34-8195 FAX34-9270
編集 ボランティアだより編集委員会

福祉体験学習(塩山南小)



6月13日(月)の1・2校時に塩山南小学校にて小学4年生約60名を対象に社協職員が講師となり、福祉体験学習が開催されました。高齢者疑似体験、白杖・アイマスク体験、車イス体験を行い、高齢者や障がい者についての理解を深めました。

高齢者疑似体験では、ヘッドホンや特殊眼鏡、手足の重りなどを装着して階段を歩いてみたり、文字を読んだり、箸を使ったりと日常生活動作をすることで高齢者の気持ちを体験しました。

白杖・アイマスク体験では、アイマスクをして白杖を持ち、目の見えなことを体験しました。目が不自由な人の不安や恐怖心などの気持ちを考えるとともに、介助の方法について学びました。

車イス体験では、車イスの種類や基本的な操作、介助方法について体験しました。また、乗っている人が安心できるにはどうすればよいかを考え、声掛けの大切さについて学びました。

短い時間でしたが、今回の体験を通して高齢者や障がい者の立場を理解し、福祉について少しでも関心を持つことができたら嬉しく思います。



絵本の読み聞かせボランティア(大和小)

6月10日(金)の朝、大和小学校で行われている絵本の読み聞かせボランティアの取材に行ってきました。毎年6月に行うことから「あじさい読書」と呼ばれています。

あじさい読書では1ヶ月間毎日地域のボランティア・保護者・先生が日替わりでそれぞれ絵本を持ち寄り、1年生～6年生までの各学年に対して英語や季節にあった絵本を読み聞かせをしていました。また、読んだ後には「ここが良かった」と感想を言ったり、質問をしたりすることで絵本をより深く味わっているのが印象的でした。



学校側がボランティアを導入した理由について加納校長先生から「ボランティアはスキルを持っており、絵本についても知っていることが多い。また、ボランティアが入ることで子どもたちも特別感を持つとともに興味深く聞いている。」とお話を伺いました。

子どもたちの感受性が育まれるだけでなく、地域のボランティア・保護者が関わっていることで学校と地域の強い繋がりを感ずれる温かく素敵な時間でした。



ボランティアだよりの費用は県共同募金会の配分金の一部を充てています。

7月の定例活動

グループ	日にち	時間	場所
車イスダンス【車イスダンスの会】	2日	午前9:30~	中央区民会館
点字勉強会【コスモスの会】	7日・21日	午後1:30~	ボランティア事務所
いきいきサロン【すみれ会】	20日	午後1:30~	中央区民会館
朗読勉強会【やまびこ会】	27日	午後1:30~	ボランティア事務所
手作り作業【つみくさ会】	28日	午前中	ボランティア事務所
声の広報	【やまびこ会】		塩山保健福祉センター
ひとり暮らし高齢者テレホンサービス	月~金曜日		
ボランティアだより【編集委員会】	5日・15日		ボランティア事務所



ボランティアだより第200号記念~“ボランティア”を振り返る~

ボランティアだよりは、合併以前の塩山市の時に数人のボランティアが自分たちの活動を市民に知ってほしいという思いから、最初はガリ版印刷を使い全て手作業で作っていたそうです。

回覧板方式でスタートした後に全戸配布へと切り替わり、より市民の方々へ情報がいき渡るようになり、合併後の平成17年11月に甲州市として現在の形の「ボランティアだより」第1号が発行されました。

今月号のボランティアだよりでは、第200号を記念して編集委員として初期の頃よりボランティアを続けている田邊国代さん・入倉金ヨさんから、ボランティアへの思いや懐かしいお話を聞いてきました。

《interview》

2007年11月号→

今から15年前のボランティアだより



今回お話を伺った
田邊国代さん(右)と
入倉金ヨさん(左)

◆ボランティアをはじめたきっかけは、『自分にできることで誰かの手助けができるといいな』という、誰もが持っているそんな小さな思いから始めたとのことでした。

編集委員会での楽しかった思い出として、『田邊さんが自作した紙芝居をバイクの後ろに積んで、地域の福祉施設を訪問し、そこで紙芝居をしたりみんなで歌ったりして同じ時間を過ごし、お別れのときは全員で見送ってくれたこと。それが嬉しくて、また新しい紙芝居を作っては何度も足を運んだ』という話をしてくれました。

また、地域の子どもたちとお手玉などを使って交流するボランティア活動は、その後地域の老人クラブへと引き継がれているそうです。

インタビューの最後には、『仕事に趣味にボランティアに毎日が忙しかったけど、とても充実していた。それが今の心と身体の健康に繋がっている』と“笑顔”で話をされていて、同じ思い出を共有している仲間としての姿が、とても印象的でした。◆

ボランティアに関わる全ての人が、二人と同じような“笑顔”とともに活動してほしいと、強く思いました。



ボランティア川柳

人の輪は 何より大事 生きる糧

伊藤 富美江